

### (3) 生態系ネットワークの展開に向けた基本方針

#### ■方針1：多様な主体と連携・協働して取組を進めます

目標を達成するためには、個別単独の取組だけでは十分ではありません。コウノトリ・ツル類が地域に受け入れられるように理解を深めながら、様々な関連主体とビジョン・目標を共有し、それぞれの役割分担に応じた連携・協働による取組を進めます。

#### ■方針2：コウノトリ・ツル類をシンボルとした健全な生態系を取り戻す取組とします

健全で持続的な私たちの生活に不可欠な「生態系サービス」の供給源となる良好な生態系を取り戻すためには、高次消費者であるコウノトリ・ツル類を指標に、これらを取り巻く多様な生きものも含めて、その生息・生育基盤となる自然環境の保全・再生の取組を推進します。

#### ■方針3：四国圏の安全・安心の確保と合わせた「グリーンインフラ」の概念に基づく取組とします

南海トラフ地震や近年の気候変動により激甚化する自然災害へ備えるための河川整備等の公共事業と、コウノトリ・ツル類の生息環境の保全整備を一体化させた、環境と防災・減災等の融合を図る「グリーンインフラ」の取組として進めます。

#### ■方針4：地域の社会・経済に効果をもたらす「地域創生」の取組とします

自然の保全・再生のみならず、地域の産業やコミュニティ、文化・伝統、教育、魅力的で元気な地域づくりなどの、社会・経済がもつ課題を統合的に改善させる「地域創生」の取組として進めます。

#### ■方針5：条件が整っている地域から先行して進め四国全域への展開を段階的に進めます

コウノトリ・ツル類のくらす自然環境と社会環境の条件が整っている流域や地域から先行して事業化を進め、順次、事業地域を増やししながら、四国全域へのネットワークが広がる展開を目指します。

#### ■方針6：広域的な視野を持ち他地域の生態系ネットワークとの連携を意図した取組とします

コウノトリ・ツル類は、広域的な移動・交流を行う大型水鳥類であることから、世界や東アジア、日本全国の生態系ネットワークとの連携が不可欠になります。特に、隣接する近畿圏、中国圏、九州圏域における生態系ネットワークの進展との連携を図りながら効果的な展開を進めます。

#### ■方針7：試行錯誤に基づく順応的で着実な取組を進めます

自然環境と生きものとの関わりは複雑で地域ごとの違いがあり、人と自然との関係についても大きな不確実性を持っています。地域での学びあいと話しあいを重視した合意形成を尊重し、取組の実施と客観的な検証を行いながら、必要に応じて見直す順応的な進め方を基本とします。